



県政に勇氣！ 南魚沼に元気！

ひぐち
秀敏

元気通信

2022/11 第13号

発行責任者：柴田恵美子
南魚沼市塩沢1412-2 阿部
ひぐち秀敏後援会事務所
電話・FAX：025-782-5233

ひぐち後援会が総会

これから力合わせて

県議選 柏崎刈羽原発再稼働が争点

ひぐち秀敏後援会は、
9月27日に後援会総会
を開き、市民と野党が
今後も力を合わせて、
ひぐち県議を支えるこ
とを確認しました。

当日は後援会員のほ
か、日頃から支援いた
だいている支援団体や
労働組合の仲間など、

1000人を超える人が
集いました。

米山隆一衆議院議員、
梅谷守衆議院議員、打
越さくら参議院議員も
激励に駆け付けました。

米山議員は「県議選で
は柏崎刈羽原発の再稼
働が争点になる」とし
て、原発に頼らない社
会をめざすひぐち県議
に期待していると述べ
ました。

ひぐち県議は「持続
可能な地域医療提供体
制や脱原発社会、人を
大切にする県政を求め
てきた」と3年半の活
動を報告しました。中
山間地域など「へき地」
の医療を守るためには

3年6か月の活動を報告し、自らの政策を
語るひぐち秀敏県議 9月27日



の医療を守るためには

県立病院をはじめとし
た公立・公的病院の役
割が重要と考えて維持
を求めてきたこと、検
証総括委員会、技術委
員会、避難委員会を可
能な限り傍聴して県の
原子力防災や原発再稼
働に対する考えを問い
ただしてきたこと、コ
ロナ化で苦しむ事業者
支援と労働者の生活改
善に向けた最低賃金引
上げを求めてきたこと
などが語られました。

今後の活動について、
魚沼地域で唯一の非自
民の県議として、花角
県政に向かい合ってい
く決意を改めて表明し
ました。

雪ありて

議会に送り出
していただき3
年半。地域のみな
さんから要望
や相談をいただ
くことが増えた。
一部は本紙の
「玄関先から」

で伝えてきた■相談く
ださった方から「あり
がとね」と感謝の言葉
をいただくこともある。
声をかけていただいた
こちらこそ感謝しなけ
ればならない■河野太
郎デジタル相は、20
24年秋にもマイナ
ンバーカードと一体化
した「マイナ保険証」に
切り替えると発表した。
「任意なのに事実上義
務化する政府のやり方
は卑怯」など、批判の
声が相次ぐ■背景には
国民の声を聞かずに国
葬を強行し、旧統一教
会との関係もきちんと
調査しない政府への不
信感がある■県民の声
に耳を傾け、真摯に向
き合うことの大切さを
痛感している。(ひ)

ひぐち秀敏決意表明



「にじいろ」を手に、これまでの活動報告とともに、自らの政策を語るひぐち県議

医療・福祉・教育
県は、国が進める地域医療構想に基づき、県立病院の再編、民営化の議論を進めてきました。財政難の原因の一つが県立病院の赤字だとして、県立加茂、吉田病院を公設民営にすることを決定しまし

た。松代、妙高、柿崎、津川の4病院は市町主体の運営とするための協議を続けていますが、地元自治体の了解は得られていません。コロナ禍で重要な役割を果たした公立・公的病院の存続と、医療スタッフの確保を求めています。再編で統合される病院で働く職員の雇用確保も訴えてきました。南魚沼市が進める市立病院群の

再編議論と合わせ、持続可能な地域医療提供体制をめざしていきま

学校現場はコロナ禍による多忙化で教員の負担が増えています。負担軽減に向け、スクールサポートスタッフの全校配置などを実現させてきました。教員採

県では儲かる農業の

コロナ禍で、あらためて公的医療の重要性が明らかになり、福祉や教育の現場の課題も浮き彫りとなりました。人々の生業（なりわい）を支える公助の必要が認識されました。ひぐち秀敏は、県民の命と暮らしを守る施策実現をめざした3年半の活動を報告し、今後の政策を語りました。

人を大切にする政治めざす

樋口県議が初当選してから3年と6か月が経ちました。これもひとえに皆様のおかげと、感謝申し上げます。ありがとうございます。

後援会長
柴田恵美子

できない状況になり、収束を見ないまま時間だけが経ってしまいました。後援会が十分な活動をできない中、県議会において樋口県議は新人とは思えない発言で、県民の声を伝えてきました。議会がないときは地元の皆様の声を聞き

たいと、地域を回っていました。樋口県議は9月27日の総会で、自らの政策の実現に向けて取り組む決意を力強く語りました。私も、このまま後援会長を降りる訳にはいかないと思い、引き続き樋口県議を応援することにいたしました。後援会がさらに元気になるよう取り組んでいきます。

第4回 明日を開く連続講座

打越さくらの暮らしと憲法カフェ



11月27日(日)
14:00~16:00
大巻開発センター

憲法が定める国民の権利について、話し合ってみませんか。

地域経済・農業

コロナ禍で県経済も停滞を余儀なくされました。県では宿泊、飲食業を中心に支援策を実施してきましたが、個人事業者など小さな事業者には支援が行き届いていませんでした。制度の見直しを重ねて要望し、一定の改善を実現してきました。

原子力発電所を巡る動き

- 2011年
3月 東日本大震災発生
東京電力福島第一原発が
炉心溶融等重大事故
- 2012年
6月 原子炉等規制法改正
運転期間は原則40年に
(最長20年延長可)
- 2017年
8月 米山知事が生活検証委員
会、避難委員会設置
- 2018年
1月 検証総括委員会設置
5月 「再稼働の是非は、県民
に信を問う」とした花角
氏が知事に当選
- 2021年
2月 柏崎刈羽原発でIDカー
ドの不正使用が発覚
3月 核物質防護設備の一部で
機能喪失が発覚
4月 原子力規制委員会が、柏
崎刈羽原発の運転禁止を
命令
- 2022年
8月 岸田首相
柏崎刈羽6、7号機含む7
基を再稼働の方針
60年の運転制限廃止、新
増設の検討を表明
10月 原子力規制委員長
運転期間削除を容認

原子力
政策
福島
の
教訓
生か
せ

岸田首相は8月のGX実行会議で、柏崎刈羽原発6、7号機を含め、来年夏以降の再稼働をめざすとともに、新規増設を検討するよう指示しました。昨年10月に閣議決定したエネルギー基本計画で「可能な限り原発依存度を低減する」としていた政府方針を転換することになりました。原子力規制委員会の山中委員長も、原発の運転期間を原則

40年、最長60年と定めた原子炉等規制法の規定を削除する見通しを示しました。東京電力福島第一原発の過酷事故を受けて原子炉等規制法を改正し、定めなかった原発の運転期間を原則40年、原子力規制委員会の基準委適合した場合に限り、最長20年まで延長できるとした経過を忘れたのでしょうか。今年2月時点でも3万3千人を超える人が避難生活を余儀なくされています。福島県、島根県では再稼働を求める請願を県議会が採択し、知事が再稼働に同意しました。来年4月の県議選の結果が再稼働判断に大きく影響します。福島事故の教訓を生かさなければなりません。

実現に向けて、園芸生産の拡大を進めていますが、南魚沼など積雪地での導入は困難とする声が聞かれます。中山間地域に適した農業政策を求めています。農家を指導する普及指導員に欠員があり、補充を求めています。すべての労働者の賃金改善に向け、最低賃金の引上げと中小企業支援を求める意見書を、



後援会員らで満席となった総会

平和・脱原発

政府は柏崎刈羽原発6、7号機を含む7基の原発を来年夏以降に再稼働する考えを示しています。原子力発電所に頼らない社会の実現に向けて、原発立地県である新潟県の姿勢をただしてきました。

原発に頼らない社会へ

花角知事は再選後も「三つの検証結果が示されない限り、原発再稼働の議論は始めることはできない」としています。しかし、6月定例会の一般質問では、検証委員会が出された課題が整理されなくても、検証結果が出された後は再稼働の議論を始めると思っています。県民の安全安心を第一に、原発に頼らない社会の実現に向けて取り組みます。

議会の見える化

「にいがた県議会だより」における代表質問の掲載数を各党派同数とするよう求めています。常任委員会の録画中継実施も必要と考えています。県民に見える県議会をめざしていきます。

今後も「にじいろ」や「元気通信」を発行し、県議会での質疑や日頃の活動の様子を伝えていきます。

ひぐち県議は、玄関先や街角でみなさんの困りごとや、ご要望などを聞かせていただいています。即答できないこともあります。市議会議員や行政の力をお借りしながら、課

玄関先から

題の解決に向けて奮闘しています。ときには難しい課題に直面し、悩むこともあるようです。ひぐち県議の日常活動の一コマを、エピソードも交えながらお伝えします。



政府の観光促進事業「全国旅行支援」が10月11日に始まり、新潟県も「にいがた旅割キャンペーン」をスタートさせました。キャンペーンを利用して旅に出かける方も多いことでしょう。

事業開始を前に、南魚沼市で宿泊施設を経営する方から予算の配分方法の見直しを求める声が寄せられました。

県は予算の配分を、昨年6月から実施してきた「にいがた県民割キャンペーン」の実績に基づいて行いました。しかし、湯沢町や南魚沼市へは関東方面からの客

「旅割」見直し求める

が多く、県内客は少ないため、県民割の実績では配分が少なくなりそうです。せっかく割引対象が全国に拡大されるのに、そのメリットを生かせないというのです。県に対し、予算の配分方法見直しと12月21日以降の事業継続を求めました。

10月14日付け新潟日報は「国内旅行割引 来年も継続」「全国旅行支援」の延長か、別の仕組みの創設で調整している」と報じました。県は「旅割」の実績を見て、必要に応じて国への予算要望を行うとともに、追加配分があった場合には事業者への配分方法の見直しも含めて検討したいとしています。

旅行者、事業者双方にメリットがあり、国内経済の回復で国民全体に還元される制度となるよう、引き続き求めていきます。

「車庫にマイマイガが来て困っています。うちの前の街灯だけLEDじゃないので」と相談いただきました。はじめは何の話か理解できず調べてみました。

マイマイガなど夜行性の虫は紫外線を見ることができ、そのため、電灯から出る紫外線に集まります。しかしLEDは紫外線をほとんど出さない

(※)ため、虫が寄りつきにくいのです。相談いただいた方の家の周りの街灯はLEDに交換されていますが、相談のあった街灯では、すぐには交換できないとのことでした。

2か月余りが過ぎ、交換工事を行うとの連絡に感謝。これでマイマイガも寄りつかなくなるでしょう。

※一部に紫外線を発生するLEDもあります。

マイマイガはLED嫌い

「『元気通信』を作っているのは誰だ」。9月中旬、事務所に男性から電話がありました。「私です」。受話器をとった樋口は、お叱りを受けるのではないかと恐る恐る答えました。「文章もそうだが、割付もあなたがしているのか」「はい」。まだ、おどおどしています。

「よくできている」。の見出しの前の文章が、

「『元気通信』を作っているのは誰だ」。9月中旬、事務所に男性から電話がありました。「私です」。受話器をとった樋口は、お叱りを受けるのではないかと恐る恐る答えました。「文章もそうだが、割付もあなたがしているのか」「はい」。まだ、おどおどしています。

「よくできている」。の見出しの前の文章が、

「『元気通信』製作者は誰？」

最後は間違いを指摘される落ちがつきました。が、よく読んでくださる方がいることに感謝です。読んでくださる方に思いを寄せ、よりよい紙面づくりに励みます。